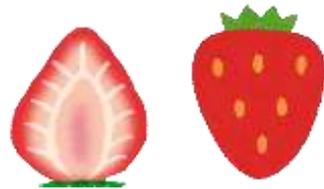


図書館だより



2021年3月1日発行

3月が始まりました。苺が旬の時期となり、苺を使ったスイーツを見かけることが増えました。見た目もおいしそうなものばかりで、つい手を伸ばしがちです。苺の品種といえば「とちおとめ」(栃木)や「あまおう」(福岡)、「紅ほっぺ」(静岡)など有名ですが、埼玉県にもオリジナルの品種があると知っていますか。「あまりん」「かおりん」という品種で、秩父市出身の落語家 林家たい平師匠が名前を決めた苺です。地元で生まれた苺の味、機会があればぜひ味わってみたいですね。



さて、先月からNHK大河ドラマ『青天を衝け』が始まりました。この作品では日本資本主義の父と呼ばれ、福祉や医療、教育などにも力を注いだ渋沢栄一の生涯を描かれています。彼の生まれは埼玉県深谷市で、埼玉県北部地域には彼の残した足跡が多く残されているのだそう。2月16日には深谷市に「深谷大河ドラマ館」もオープンしました。安心して出かけられるようになったらゆかりの地を巡ってみるのも楽しそう。

苺をじっくり鑑賞

626-7 『いちごだんめん図鑑』 わらなべまこ@築地市場ドットコム || 著 小学館

これまで苺の断面をじっくりと観察したことはありますか。日本で栽培されている苺42種を断面図で紹介した図鑑です。見た目ではそんなに違いが目立たない苺ですが、その断面を見てみると、それぞれの個性が見えてきます。それぞれの名前や生産地、味わいの特徴などがまとめてあり、自分好みの苺を探すのにも役立ちます。苺は見た目もかわいらしい果物ですが、かわいらしい名前がつけられたものが多く、名前を読んでいるだけでもほっこりとした気持ちになってきます。埼玉の「あまりん」「かおりん」も載っています。

渋沢栄一を知る

281-サ 『埼玉の三偉人に学ぶ』 堺 正一 || 著 埼玉新聞社

全盲の大学者 塙保己一、信念に生きた実業家 渋沢栄一、日本最初の公認女性医師 荻野吟子、埼玉が誇る三人の偉人を紹介した本。渋沢栄一は新一万円札の「顔」となることでも注目を浴びている人物です。「日本資本主義の父」と聞くだけではピンとこなくても第一銀行(現在のみずほ銀行)、王子製紙、東京海上保険、日本鉄道会社(現在のJR東日本)など500社以上もの企業をおこした人だと知ると、そのすごさを感じるのではないのでしょうか。さらに日本最初の養護施設を作るなど福祉事業や人材を育てるための教育にも力を尽くしており、読めば読むほど偉大さを知ることができます。

贈る言葉に代えて

明日はいよいよ卒業式。思いどおりいかないことも多く、色々な思いを抱え、この日を迎える人もいることでしょう。それでもみなさんはたくさんの笑顔で学校を賑わせてくれました。その逞しい力を新生活でも存分に発揮し、自ら進んでたくさんの経験を積み、成長してってください。3年生に渡す図書館だよりはこれが最後となりますが、これからも本に触れる機会を絶やさず過ごしてほしいと思っています。先生方からもみなさんへ贈る言葉に代えて、本を紹介していただきました。

002-オ 『大学生のためのレポート・論文術 新版』 小笠原 喜康 || 著 講談社

大学に入ってまず湧いてくる「レポートってどうやって書いたらいいの?」という疑問。それがこの冊ですべて解決できます! レポートの書き方から情報の調べ方、さらには卒業論文執筆時まで使える大学生必携の1冊です。昨今、コピペでの課題の提出が問題になっています。なぜこのようなことが起こるかという、正しいレポートの書き方を知らないからです。これ読んで正しいレポートの書き方を身につけ、充実した大学生活を送ってほしいと思います。

【三年一組担任 鈴木信滉先生からの贈る本】

『恋愛論』(914.3-サ 『墮落論』 坂口 安吾 || 著 角川書店に収録)

「若者の恋愛離れ」が言われて久しい。なんとなく学校で大っぴらに扱うのが難しいテーマでもあるが誰にも恋せず誰も愛さず一生を終えたとしたら、そんなつまらない生き方はないだろう。一読したところですんなり呑みこめる部分は少なく、フザけているのかと思われるところもあるかもしれないが、この短いエッセイのどこかしらは心に響くものであるだろう。恋愛に限らず、生き方の指南となる部分もあるかもしれない。生真面目すぎない安吾の文だからこそ伝わるものがある。

【三年七組担任 湯本先生からの贈る本】

先生の「今月はこの本を読みました」

今月は本多先生が読んだ本を紹介していただきました!

『明日の僕に風が吹く』(913.6-イ 乾ルカ || 著 角川書店)を読みました。中学2年のある日、主人公(有人)にとって、それまでの生活が一変する事件が起こった。それ以来、有人は自分の部屋で引きこもりの生活が始まる。そんなある正月の日に医師であり叔父である雅彦が北海道からやってくる。そして有人に北海道の離島 照羽尻島てにある道立の高校を紹介する。

5人しかいない。島の生徒2人、そして島外の生徒3人である。島の人々との出会い、数少ない生徒との厚い結びつき。それぞれが高校生としての悩みを持ちながら、成長していく物語です。

読み易い文章で、読んでいる内にこの先がどうなるのか気になります。

【本多先生】

図書館で出会う！～【春】に出会う編～

寒い冬から次第に日が伸び、草花が芽生え始めるあたたかな季節が近づいてきました。春といえば、みなさんはどんなイメージを浮かべるでしょうか。さくらの季節、苺の季節、花粉の季節、出会いの季節、新たな始まりの季節、などたくさんありますが、みなさんにとってはどんな季節でしょうか。

この企画を通じてみなさんには色々な出会いを図書館で楽しんでもらいましたが、最後は【春】と出会える本を集めました。あたたかな春のようにみなさんの心にぬくもりを伝えられたらいいなと思いながら選んだ本たちです。ぜひ読んでみてください。

◆展示本リスト◆

- 291.3-ア 『一度は見たい心に残る花の名所』 アミーカ 著 メイツ出版
→羊山公園の芝桜、秩父高原牧場のポピー、春を感じる埼玉の花の名所も載っています。
- 470-ヨ 『みちくさの名前。』 吉本 由美 著 NHK出版
→みちばたの草の名前を覚えながら歩く企画。春の散歩ではどんな出会いがあるのでしょうか。
- 748-モ 『一度は見たい桜』 森田 敏隆 / 宮本 孝廣 著 光村推古書院
→今年の春は本を開いてお花見の旅に出かけませんか。美しい桜の景色に心癒されます。
- 911.3-ナ 『夏井いつきの「花」の歳時記』 夏井 いつき 著 世界文化社
→俳句で「花」とは「桜」のこと。「花」を詠んだ名句と写真のコラボレーションを楽しんで。
- 911.5-マ 『きょうも天気』 まど・みちお 詩 谷内 こうた 絵 至光社
→春夏秋冬それぞれをテーマに書かれた詩集。春の風景がらわりと心に浮かんできます。
- 913.6-ア 『アンと愛情』 坂木 司 著 光文社
→季節の移ろいを感じる和菓子がたくさん登場する物語。和菓子の楽しみ方は奥深い。
- 913.6-セ 『春、戻る』 瀬尾 まいこ 著
→結婚するさくらの前に現れたいるはずのない兄。奇妙な関係に次第と心が温まってくる。
- E-イ 『14ひきのぴくにっく』 いわむら かずお 著 さく 童心社
→はるののはらにでかけた14ひきのねずみのかそくがみつけたたくさんのはるのはらじまり。

この中でも、いちおしなのは…

913.6-サ 『アンと愛情』 坂木 司 著 光文社

デパートの食品フロアにある和菓子屋「みつ屋」でアルバイトとして働く杏子(愛称はアン)。甘いものを愛する彼女はプロフェッショナルな上司と同僚に囲まれ、日々和菓子の奥深い世界を知っていきます。作中には四季折々のおいしそうなお菓子がたくさん登場します。春のお話では、アンが『春の山』と名付けられた上生菓子を食べますが、味わいについての描写がたまらなくおいしそう。ぜひ読む時には和菓子を用意し、『和菓子のアン』、『アンと青春』とシリーズ3冊併せて楽しんでください。

新着本コーナーの気になる1冊

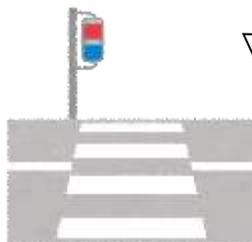
376-ヤ 『あたらしい高校生』 山本 つぼみ 著 IBCパブリッシング

大好きなダンスの練習をするのに受験時間は少なくしたい、そんな行き当たりばったりの決断で公立高校へ入学。ごく普通の高校生活を始めたはずの著者はやがて世界に目を向け、海外トップ大学への進学を目指ようになります。想像もしなかった未来へ向けゼロから始めた勉強、挫折を繰り返して掴み取った夢、留学先での生活など自身の体験を通して、「あなたにも出来る」というメッセージを伝えてくれます。



913.6-オ 『白野真澄はしょうがない』 奥田 亜希子 著 東京創元社

頼れる助産師の白野真澄、駆け出しのイラストレーターの白野真澄、白野の苗字を脱ぎたい白野真澄、長年付き合っている彼にマンネリを感じる白野真澄、色々なことに過敏な白野真澄。名前は同じでも彼らの人生は5者5様。心にそれぞれわだかまりを抱え、どうしたものかと悩みながら過ごす日々が描かれています。どんな形で白野真澄たちが新たな一歩を踏み出していか、見守りながら読んでください。



913.6-シ 『サード・キッチン』 白石 悠 著 河出書房新社

夢を叶え、アメリカの大学へ入学したナオミ。しかし、自信を持っていた英語はいざ会話をしてみると聞き取れないし、上手く話せない。言葉にも育ちにも劣等感を覚え、ナオミは自分の殻に閉じこもるようになる。そんな彼女が出会ったのはマイノリティ学生が運営する食堂「サード・キッチン」だ。食堂に集う様々な人種の学生との交流の中で歴史や差別や理不尽を知り、少しずつ自分の殻を破り、成長していく。



B914.6-セ 『ほんとはかわいくないフィンランド』 芦澤 桂 著 幻冬舎

素敵でおしゃれでかわいいものいっぱい、そしてゆったり。そんなイメージのフィンランド。でも結婚してこの地で暮らし始めた著者が見たありのままのフィンランドはちょっと違った！？おしゃれよりも実用性のある服装だし、世界一まずいと言われる餡サルアミッキ味のものはびこっているし、妖精はおじさんの姿をしている。だけど、それも含めてフィンランドの暮らしを愛しているのが伝わってくるエッセイです。

